

萩市医師会報

No.593 2022.8

「花火2022」萩市内
撮影 K.W.

9 月 例 会
9月30日(金) 午後7時
於 医療支援センター

行政説明

テーマ「新型コロナウイルス感染症の感染急拡大に伴う対応について」

説明者 萩健康福祉センター
野村環境保健部副部長、
古谷保健福祉総務室主幹

【綿貫会長】

発熱外来で、関係医療機関の皆様方は大変多忙を極めておられることと思います。この場を借りて、ご尽力に対し感謝申し上げます。

山口県全域での感染者の急激な拡大により病床使用率も高くなっていますが、重症者は少ないため、これまでとは違った検査・診療体制を始めることが山口県でも検討がされています。例えば、濃厚接触者に関する認定の仕方や健康管理の取り扱いの変更、「みなし陽性」の導入など、日々、新たな仕組みへの更新があり、情報共有するため、逐次、迅速に情報発信をするよう医師会として努力して参ります。本日は、山口県萩健康福祉センターから「新型コロナウイルス感染症の感染急拡大に伴う対応について」と題して、検査・診療体制の見直しを中心に行政説明をして頂きます。

【萩健康福祉センターからの説明】

野村副部長から、挨拶の後、山口県及び萩市の感染者状況について、以下のとおり、報告がされた。新規感染者数は7月28日に山口県全体で1,669人、7月22日に萩市で35人と過去最高を記録し、7月29日現在、県内の療養者数は11,139人、うち自宅療養者数は10,091人で、萩市では193人と増加し、今後も増加することが考えられること

山口県の感染に関する情報は県のホームページの実践「新しい生活様式」のサイトの

「新型コロナウイルス感染症関連情報はこちら」で確認することが出来ること、さらに同サイトをクリックすれば「知事からのメッセージ」「感染に関する情報」「陽性と診断された方へ」に移動し、「感染に関する情報」をクリックすれば「陽性と診断された方へ」の項目から保健所からの連絡がある前に陽性者本人が自ら疫学調査に関する事項をオンラインで入力ができるようになったこと

今後、山口県として、県保健所は重症化リスクのある感染者を守ることを優先しつつ、陽性者の症状が悪化した時、適切に医療へ繋ぐことができることに重点を置いていくよう業務方針を変更したこと

7月22日から自宅療養期間が7日間から5日間になり、さらに2日目、3日目に抗原検査で陰性が確認できた時点で日常生活に戻ることができること。ただし、5日目までは感染対策として、マスクの着用、飲食を他者と一緒にしないこと、不要不急の外出をしないなどの感染対策を順守すること

保健所の業務として濃厚接触者を特定するケースは、陽性者の同居家族、重症化リスクの高い方が利用している福祉施設、病院、高齢者施設などの感染拡大リスクの高い場合に絞込むこと

学校や事業所に所属している学生、従事者が陽性者となった場合は、所属に陽性者となった旨の申し出をして頂き、陽性者と接触し感染の可能性のある方を所属がリストアップし、自宅待機と健康観察について感染の可能性のある方が自己管理するようになったこと

新型コロナウイルス感染症者の急増に伴い、診療・検査医療機関への受診に一定の時間を要している現状を踏まえ、7月21日

から「みなし陽性（臨床診断）」（新型コロナウイルス感染者と同居等の濃厚接触者が有症状となった場合に、医師の判断により検査を行わず臨床症状で新型コロナウイルス感染症と診断する取り扱い）の運用を開始すること

これに関連して県から郡市医師会長あてに文書で、医師が検査なしで臨床症状のみで陽性者とするができるが、投薬についてはカロナールなど対症療法薬についての処方では可能だが、治療薬の処方をする場合は確認検査が必要となることが強調されていること

最後に保健所からとして、以下のとおり4つの要望がされた。

- 1) 発生届を提出する際の事前電話連絡において、重篤な状況である場合は、その時に伝えて頂くことで迅速な対応に繋げたいこと
- 2) 事後の入院調整の判断に有用となるので、診療した際に酸素濃度を測定頂きたいこと
- 3) 発生届の新様式は、陽性者の重症化リスクの把握に重きを置いた様式であること
- 4) 陽性者本人が自ら疫学調査のオンラインで入力ができるようになったことに関して、医療機関に対し、取扱い周知のチラシを配布するので、チラシに記載しているQRコードを例示し、陽性者に対して可能な限り、疫学調査への協力を伝えて欲しいこと

【質疑応答】

（質問1）

みなし陽性者への診療対応は、防護服等の対策をすることになると思うが、そのとおりか。また、検査をせずに処方する場合とそうでない場合について、再度、見解を

伺う。

（回答1）

診療の場合は、防護服等の対策が必要であります。一般対処薬は検査の必要はないですが、ラゲブリオ等のコロナ治療薬の処方に際しては、処方すべきかどうかの判断のために検査は必要となります。

（質問2）

「みなし陽性者」とする場合に投薬が後手に回り、対応が遅れることがありえる。陽性者が多くなり外来診療機能が逼迫している地域では有用とは思いますが、萩地域において「みなし陽性」を優先すると対応が後手に回ることにならないかとの危惧を持つが、如何か。

（回答2）

ラゲブリオ等の投薬が出来ない小児等にみなし陽性を適用することは有効と考えますが、高齢者に関しては検査し、処方薬を見極めるなど丁寧に対応される方が良いと思います。

※古谷主幹より、「みなし陽性」について、臨時的処置での対応であることの補足説明あり。

（質問3）

コロナ治療薬の投薬の際には、保健所に電話確認しているが、明確な回答をお願いするとともにラゲブリオ薬の供給が不足することはないか。また、「みなし陽性」は陽性者の同居家族で症状があれば「みなし」とすることでよいか。

【野村副部長の回答】

今のところ十分な量があると聞いています。みなし陽性は、その通りです。

一 医 師 会

1 県医情報

前川県医常任理事

県医師会の執行部の役員変更、救急医療の医師減少の対策、地域医療情報ネットワークの状況など、最新の情報が報告された。

2 会長報告

綿貫会長

山口県医師会第191回定例代議員会報告

6月16日(木) 於 山口県医師会

報告事項は、令和3年度事業報告、令和3年度決算報告、5月の臨時代議員会での役員改選であり、定例代議員会で、承認済みであること。会議資料を事務局に預けるので必要な方は閲覧をされたいこと。県医師会報にも詳しい報告が掲載されるので確認をお願いしたいこと

3 萩市の国民健康保険診療所について

佐久間副会長

萩市国民健康保険の各診療所の状況について、今後、医師会の先生方に医師確保や運営の支援など協力をお願いすることもあり得るので、医師会の先生方との情報共有のために運営状況について報告したこと

現時点の懸案事項としては福川診療所に常勤医が不在で医師確保の目途が立っていないことが強調された

※詳細は萩市医師会報7月号の7月定例理事会の記載内容をご覧ください。

4 8月診療報酬請求書の移送について

大藤理事

国保・社保 8月10日(木) PM2:00まで

5 8月定例理事会、例会の日程について

大藤理事

定例理事会 8月10日(木) PM7:00～

例 会 休会

6 山口県医師会学校医部会役員会報告

藤原理事

6月23日(木) 於 ホテルニュータナカ

「学校における新型コロナウイルス感染症対応に係る留意事項について」、「小児の新型コロナウイルス感染症対応について」、「マスクの着用に関するリーフレットについて」、「マスクの着用の考え方及び就学前児の取扱いについて」、「学校検診における成長曲線の見方」の項目について資料に沿って報告された。

※詳細は、萩市医師会報7月号の7月定例理事会報告の記載内容をご覧ください。

7 郡市医師会成人・高齢者保健担当理事協議会報告

兼田理事

6月30日(木) 於 山口県医師会

アレルギー疾患の対応ができる医師を増やすことを目的に山口県独自にアレルギー疾患医療認定制度が創設され、認定医養成研修はオンデマンド配信の方式で予定であること

肝がん・重度肝硬変治療特別促進事業に含まれるBCの肝炎の治療の助成を目的とする肝炎の治療特別促進事業の推進について紹介があったこと

風疹の検査事業に関する風疹の追加的対策について取組む場合、取り組まれる各医療機関において集合契約の内容の変更を郡市医師会に届けること

山口県胃内視鏡検診研修会を開催することががん検診キャンペーン推進事業として、2人1組で癌検診を受診した後キャンペーンに応募すると景品が当たること

糖尿病対策関係で、山口県糖尿病療養指導士講習会が今回はズームと会場とのハイブリッド方式で開催されること

禁煙については、学校での防止教育が有

効とされたことから学校医に周知の協力依頼があり、関係資料が県医師会のホームページに掲載されていること

※詳細は、萩市医師会報7月号の7月定例理事会報告の記載内容をご覧ください。

8 6月分会計収支報告について 米城理事 会計収支表のとおり、承認された。

二 萩准看護学院

- 1 生徒募集の高校訪問報告並びにポスターの掲示依頼について 神崎事務長
7月11日(月) 大津緑洋高校日置校舎・大津校舎・水産校舎、長門高校
7月13日(水) 萩光塩学院
7月15日(金) 萩高校奈古分校、萩商工高校、萩高校
生徒募集ポスター掲示依頼（10月予定）
各医療機関、市内のショッピングセンターやJAなどに要請予定。

理 事 会 報 告

令和4年8月10日(水)

萩警察署から説明

「医師会及び医療機関への安全確保に資する警察からの支援について」

説明者 萩警察署 生活安全課

十川（そがわ）係長

綿貫会長から県医師会と県警察本部との調整により、医療機関内で犯罪が起きるのを防ぐことを目的に今回、萩警察署との協議に至ったことについての紹介の後、十川係長から、以下のとおり、説明がされた。

警察への通報の仕方として、緊急時の110番通報と警察署に事前通報する場合の違いや、警察職員が現場で対応する際、私服での対応等も可能であるので、ためらわず連絡相談するよう強調された。トラブルを起こすような方など要注意者がいる場合は警察に事前相談すると警察署内で「警察安全相談カード」によって情報共有がされるので、迅速な対応となること

なお、特殊詐欺の被害状況が増加しており、萩での事例等が紹介され、その後、以下のとおり、質疑応答に移った。

【質疑応答】

(質問1)

携帯電話からの110番は可能か。

(回答1)

繋がりますが、県境の場合は他県へ繋がることがあり得ます。事情を説明すれば対応すべき所管（地元、山口県警）へ転送されます。

(質問2)

傾向別に不審電話の事例について紹介されたい。

(回答2)

実在する団体の名称を騙って架空請求した事例や、パソコン使用中に画面に「ウイルスに感染しました」と出て、記載の電話番号へ連絡させ、電子マネー購入の誘導をさせられるサポート詐欺や名義貸しの要求に応じるとその後それは犯罪に当たるとの連絡があり、解決金の請求がされたなど多様化しています。

山口県新型コロナウイルス感染症対策室のWEB会議の受講

「～新型コロナウイルス感染症関係医療機関Web会議～BA.5系統による感染急拡大を踏まえた対策の強化について～」として、郡市医師会向けに山口県新型コロナウイルス感染症対策室主催の会議が急遽開催されることになったため、理事会の協議事項の一部を来月理事会での協議に変更し、理事会を中断し受講した。

1 開会の言葉（省略）

2 説明事項

(1)現在の感染状況

新規感染者の推移、年代別内訳。自宅療養者の推移、病床の使用状況などの説明がされた。

(2)感染急拡大を踏まえた対策の強化

県からの以下の事項について協力依頼がされた。

①確保病床稼働率の向上、②後方支援医療機関の受入促進、③施設等クラスター発生時での感染制御対応協力、④自宅療養者への診療等の医療支援、⑤発生届の記載上の留意点の理解、⑥お盆期間中の受診・相談体制、抗原検査キットの無料配布、駅や空港等での無料検査体制の理解

(追加報告)

「山口県の救急の現状 12消防本部（局）と5救命救急センターへの聞き取り」

山口県救急業務高度化推進協議会

会長 鶴田良介 先生

鶴田会長から、救急搬送時間や滞在時間の延伸、県内5つの救命救急センターの実情について報告がされた。

3 質疑応答・意見交換

(省略)

一 医 師 会

1 会長報告

綿貫会長

1) コロナ急拡大に伴う検査・診療体制に関するWEB会議報告

8月1日(月)に山口県新型コロナウイルス感染症対策室主催で開催された標記会議の内容を踏まえ、綿貫会長から萩健康福祉センターの古谷主幹に「急速な感染拡大に伴う検査・診療体制等の見直しについて」と題して行政説明を依頼した旨紹介があり、古谷主幹から以下のとおり、説明がされた。

本日のWEB会議の資料として「発生届」が改正され、新様式が示されているが、改正の趣旨として、今後は陽性者で重症者、重症化リスクのある方に重点をおくことになったこと。具体的には多すぎる報告事項を絞り込み、分かりやすい文書表現に変更したこと。記載事項として発症日、ワクチン接種回数、既往歴、リスク因子、診察時の重症度の見極めが必須であることが強調されたこと

8月4日付けの山口県新型コロナウイルス感染症対策室長名の事務連絡文書に沿って、検査キットの無料配布に関する取り扱い、「健康フォローアップセンター」の設置及び機能についてポイントを絞り説明がされた。特に国の記者発表では医療機関において検査キットを無料配布するとされ、新聞報道等もされたことから、医療機関へ行けば無症状でも検査キットが直ぐに貰えるとの誤ったメッセージが広まらない様に山口県の記者発表では、県のホームページによるインターネットでの申請受け付けによる配布を謳い、医療機関での配布ということには一切触れていないこと

対象者は、重症化リスクのある65歳以上の方などを除く、50歳未満の方で基礎疾患が無く、軽症の方とすること。症状のある

場合を重視し、例えば年齢については柔軟に適用するなど医療機関で外来診療が逼迫した際に医師の判断で、軽症の方に自宅に持ち帰ってもらい自己検査するために配布すること。資料には「抗原検査キット配布チェックリスト」が提示されているが、県への報告用でなく配布者の事後確認のためのチェック管理用に役立ててもらいたいこと。医療機関で独自に記録する方策があれば、それに代えても差し支えないこと

「健康フォローアップセンター」は、無症状の方など一般的な相談対応はしないこと。陽性者への相談対応のみで休日、夜間の対応で、平日の昼間は保健所が対応すること。

【質疑応答】

(質問1)

健康フォローアップセンターで独居の方への相談対応をして頂くことに感謝するとともに萩圏域には宿泊療養施設が無く、その対策にもなることを理解したが、例えば、独居老人で感染した方の生活支援の面からも宿泊療養施設の確保は課題と思う。

施設等でのクラスターが発生した場合、医療機関から発生届が出された後の保健所の動きを教えてください。

(回答1)

家庭以外で職場等の同じ場所から6人以上の感染者が出た場合、クラスターとして認定し、感染が広がりそうになった場合は保健所から当該施設へ伺い、感染状況の把握、職員の罹患状況、感染の拡大リスクなどを確認し、翌日に疑似症状のある方及び感染リスクのある方を対象に検査を行い当日中に検査結果を出すようにしています。

(質問2)

極力、医療機関、医療機関併設の事業の

サービス利用状況などについては感染者に付随する開示すべき情報として個人情報に配慮しつつ、医療機関限りという扱いの中で検討して頂きたい。

(回答2)

詳しい情報を開示できるように検討します。

(質問3)

軽症状者向けの検査キットについて県のホームページでのインターネット配布申請する際の申込先はどこか。

(回答3)

山口県のホームページでの申込手順に従い、抗原検査キット・陽性者登録センターへ連絡するようになります。

(質問4)

検査キットの無料配布が50歳以上は対象外であることについて、絶対的な年齢制限となっているのか。

(回答4)

基本的にはそうですが、厳格に線引きできない場合も想定されますので、再度、県コロナウイルス感染症対策室に確認させていただきます。

(質問5)

無料配布による検査キットで軽症の方が自宅で自己検査し、陽性となった場合、医療機関での確認検査は必要ないのか。

(回答5)

自己検査を実施した本人がインターネットで陽性者として抗原検査キット陽性者登録センターに登録を行い、同登録センターの運用を委託している業者の医師が改めて重症化リスクの有無をトリアージし、県へ発生届を提出しますので、医療機関へ照会が行くことはありません。

(質問6)

みなし陽性者の届出をした場合、問合せがあれば、検査はしていないので陽性の証

明をしない（できない）という回答でよろしいか。

(回答6)

療養期間証明書が発行されるので、それが証明となりますとお伝えください。

2 9月診療報酬請求書の移送について

大藤理事

国保・社保 9月9日(金) PM2:00まで

3 9月定例理事会、例会の日程について

大藤理事

定例理事会 9月14日(水) PM7:00～

例会 9月30日(金) PM7:00～

以下、議題4から8までは9月定例理事会での報告に変更

4 郡市医師会救急医療担当理事協議会報告

山本理事

7月14日(木) 於 山口県医師会

5 郡市医師会小児救急医療担当理事協議会報告

花宮理事

7月28日(木) 於 山口県医師会

6 萩市風しん予防接種費用助成事業の抗体価基準の変更について

花宮理事

7 山口県医師会産業医部会理事会報告

兼田理事

8月4日(木) 於 山口県医師会

8 今後の国保診療所のあり方に関する会議報告

佐久間副会長

7月26日(火) 於 医療支援センター

9 7月分会計収支の承認について 米城理事別紙会計収支表のとおり承認された。

二 萩准看護学院

1 教務員の募集、確保について 若松理事
欠員となっていた教務員1人の雇用の確保が出来たことの報告がされた。

2 戴灯式について 米城理事
日時 10月14日(金) PM2:00
場所 医療支援センター

3 7月分会計収支の承認について 米城理事
別紙会計収支表のとおり承認された。



新役員の挨拶

萩市医師会副会長 森 繁広



この度、6月18日の総会にて、副会長に任命されました森 繁広です。平成16年から20年まで広報と保健を、平成24年に2回目の理事に選任され、会計と会員福祉を担当させていただいた後、中嶋会長の時代に副会長を務めさせていただきました。

令和2年より総務を仰せつかり、今回副会長という大任を授かり、身がすくむ思いです。

萩市医師会に入会させていただき26年経ち、萩市医師会の副会長にはこれまで見上げるような先輩の先生方が務め上げられた大変な職だという思いがあり、私が再びその職に就くということは予想だにしていませんでした。

前回2年間担当させていただきその際は、現在の萩市医師会の財政がかなりひっ迫しており、会費の値上げ、長北医療センターの廃止と職員の減少、そして萩市医師会が一般法人に移行し、同じく休日急患診療センターが稼働するなど、当時はこれまでにない激動の時代とっておりました。

しかし、今何度も息を吹き返す新型コロナウイルス感染症の波に比較的安全と思われていた萩市も飲み込まれようとしています。

そして、日々重みを増す、待ったなしの救急医療体制の整備、維持、改変の必要性、明るさの見えない中核病院問題、それに加え、最近いや以前よりあったと思いますが、へき地診療所の医師確保の問題が急浮上してきました。

今後に向けて診療所をどのように維持改変していくかの、シェアリングを含めた組織の展望を出来るだけ早く描くことが必要です。

そして、この問題は、間違いなく中核病院の全体像へ大きな影響を与えると考えます。

このように、現在の萩市の医療を取り巻く

状況は、以前と比べることのできないくらい厳しさを増しており、綿貫会長の指導の下、すこしでも萩市および萩市医師会のためになるよう微力ながら取り組んでいきたいと思っております。

会員の先生方のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

萩市医師会副会長 佐久間 暢夫



このたび、萩市医師会副会長を拝命いたしました。コロナ禍で以前のような日常が取り戻せず、救急医療や中核病院など重要な課題が山積していますが、萩市の保健・医療・介護・福祉がより充実するよう綿貫会長を支えて参ります。

会務は「介護保険」、「地域医療」および「地域包括ケア」を担当いたします。会員の先生方と協力し、行政や関連職種の方々ともこれまで以上に密で良好な関係を作り、市民の皆様により良い生活が実現できることを願って活動します。

萩市医師会理事 河野 通裕



この度2022年6月1日付で萩市医師会の理事を拝命致しました河野通裕です。以前に理事を拝命したこともありますが、時代とともに困難な問題が増えているように思われます。現在進行中の中核病院設立関連、コロナ感染対策、へき地医療対策、准看護学院の学生確保等の問題がそれらであります。個人的には独居老人対策もこの地域には重要であると考えています。そして特に予想をはるかに超えた感染拡大をみせるコロ

ナ感染につきましては今後どのような事態に発展するのか予想もつきません。微力ではありますが、諸問題に立ち向かう現綿貫篤志会長のご負担を少しでも減らし、お力になれますよう全力投球で頑張っております。医師会員の皆様のご尽力を賜りながら、前を向いて進んで参りますので何卒宜しくお願い申し上げます。まして理事就任のご挨拶とさせていただきます。

萩市医師会理事 山本 達人



このたび、萩市医師会理事を拝命しました都志見病院病院長の山本達人です。

私は、1987年に山口大学医学部を卒業後35年間外科医を生業としております。萩とのかかわりは、1987年唐樋にあった都志見病院の手術室から始まりました。非常勤手術助手として大学から派遣された日を今でも鮮明に記憶しています。その後玉木病院の非常勤になり、そして1991年に都志見病院外科の常勤として、また1995年に山陽側から萩に帰ってまいりました。

医師として大半を萩で過ごしたことになります。先代の都志見久令男先生から手術と学術活動に注力するように諭されておりましたので、医師会活動からは一歩身を引いておりました。

今後は重大な転換期を迎えた萩の地域医療を衛るために医師会の先生方と協働し、積み上げられた課題の解決に尽力したいと思います。私のビジョンは「多様性と対話から未来の地域医療を創造する」です。

よろしくお願い申し上げます。



新型コロナと共に (2) 「人は下程骨折候事、 能く知るべし」

山本 貞壽

前月号を書いて丁度1ヶ月。写真の左側は8月19日山口新聞一面のヘッドライン。盆明けの17日PM8時から18日AM4時まで悪化経過の患者さんに付合って写真右側の8月4日産経新聞のヘッドラインを思い出したのです(写真)。

保健所の方や、私の処の職員を下程という表現で申し訳ないのですが、表題「」内の言葉は鍋島直茂(佐賀藩の祖)の発せられたもので、「立場が下の者ほど、骨の折れる仕事が多いということは(上に立つ者であれば)常に頭に置いておかななくてはならない」という意です。

盆休みの三連休を私の要請で出務してくれた職員、本当によくやってくれて、「君たちとなら、老生まだやれる」の実感!ありがとう。

さて保健所に及びます。今年、新型コロナ感染と診断し、低酸素血症を示し中等症以上の病状だからと救急車で入院をお願いしたケースが4例あります。救急車が来るまで2-6時間(その間、酸素吸入・点滴をしています。搬送入院先はいずれも市外)、その間たびたび「待ってもらって申し訳ない」と電話が入っ

てきます。救急車が入ってくると保健所の職員の方が別車で来ておられるのはみていました。

17日-18日の件でその意味が判りました。患者さんを降ろしたあと、救急車と隊員3人を徹底消毒するのです。18日深夜-早朝と私を防府から自宅まで送ってもらったのですが、女性の方でした。18日は朝から平常の勤務をするとのことでした。

ジーンと胸に来る体験をしたのです。保健所前の国道を通る時、保健所の方を見ると判ります。休日も、平日夜遅くまで明かりがついているのです。

「この紋所が目に入らぬか」水戸黄門さまのシーンは格好良いのですが、責任は極めて重大なのです。

保健所逼迫 発生届に忙殺

第7波で感染者急増

「工夫しても限界」
今後を不安視

厚労相 さらに増える懸念
県内初の3000人超
コロナ感染最多25万5000人

写真 8月4日の産経新聞(右側)
8月19日の山口新聞(左側)のヘッドラインより

編集後記

記録を更新する強烈な暑さと豪雨、水害によるニュースが、いつの頃からか毎年のように流れます。COVID-19感染者数も記録更新が止まらず、皆様も疲弊が続く日々と思います。執筆時点、3年ぶりの甲子園となる下関国際が優勝候補と名勝負を演じて初のベスト4に入り、あと2つとしました。こんなニュースが増えることを願います。 (R.H.)

小児感染症情報

7/4(月)～7/31(日)

疾患名	7/4～7/10	7/11～7/17	7/18～7/24	7/25～7/31
新型コロナウイルス感染症	26	47	124	137
インフルエンザ (A・B)				
RSウイルス感染症				
咽頭結膜熱 (アデノウイルス感染症含む)				
溶連菌感染症		1		
感染性胃腸炎 (ロタ・アデノ・ノロ・その他)	13	8	2	8
水痘				
手足口病				
伝染性紅斑				
突発性発しん		1		
ヘルパンギーナ				
流行性耳下腺炎				
帯状疱疹				
ヒトメタニューモウイルス				
マイコプラズマ感染症				
ヘルペス歯肉口内炎				

報告者：いわたにこどもクリニック 院長 岩谷 一

救急月報 (令和4年7月分)

萩市消防本部

区分	救急事故種別										合計	
	火災	自然災害	水難事故	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病		その他
本	0	0	2	8	2	1	30	1	1	176	46	267
月	0	0	2	8	3	1	28	1	0	170	41	254
分	出動件数											
	搬送人員											

萩市医師会報 No.593

2022年9月2日発行

編集 広報委員会
 発行人 萩市医師会
 印刷所 (有) マシヤマ印刷